

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果(本校の概要)

1 概要

(1) 調査の目的

本調査は、全小中学校を対象にした調査であり、目的は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」(実施要領より)です。

本校では、この趣旨に基づき、調査結果を踏まえ、教育計画等を検証し、改善を図り、児童への学習指導の充実に努めてまいります。さらに結果の概要を保護者並びに地域住民の皆様を示すことにより、本校児童の学習状況の改善にご理解をいただき、今後も引き続き学校教育にご協力ご支援をいただきますようお願いいたします。

なお、この調査により測定できるのは、あくまでも学力の特定の一部であり、この調査から得られたことが全ての教育活動を評価するものではないことをご理解ください。

(2) 実施月日 平成27年4月21日(火)

(3) 実施学年 第6学年

(4) 実施教科等 国語A(主として「知識」に関する問題) 国語B(主として「活用」に関する問題)
算数A(主として「知識」に関する問題) 算数B(主として「活用」に関する問題)
理科(主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題)

(5) 質問紙調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査)

2 実施教科における全国・埼玉県・本校の平均正答率

平均正答率	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
全国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8
埼玉県	68.7	64.2	73.1	43.1	59.2
本校	69.3	62.1	72.6	45.6	61.5

3 考察

【国語A・B】

- ・Aに関して本校の平均正答率は、全国・埼玉県の平均とほぼ同程度である。
- ・Bの活用に関しては、説明文の読み取りは全国よりも10ポイントも高いが、文書の要旨をまとめて書くことや、筆者が引用している言葉を書き抜くなどの「書くこと」に課題がある。

【算数A・B】

- ・Aについては、県平均を2.6ポイント下回っている。Bについては、全国や県に比べて上回っている。具体的操作を取り入れるなど、学習意欲を高め、わかる授業を実践することが急務である。
- ・量と測定の問題への解答は全国よりも10ポイント以上高い反面、分割された2つの図形の面積が等しくなるわけを書く問題の正当率は12.0%(全国も12.5%)だった。説明で「書く」のが苦手である児童が多数いることが分かった。

【理科】

- ・知識及び活用に関する問題ともに国や県平均を上回っている。特に、振り子や電磁石に関わる問題等、実験を伴っている問題への正当率は86%と高かった。しかし、選択した答えの「わけを書く」問題では、全国28.9%に対して本校は21.9%と低かった。

【質問紙調査】

- ・算数の授業内容を理解している割合が全国に比べ下回っている。具体的操作を取り入れるなど、学習意欲を高め、わかる授業を実践することが急務である。
- ・「学校に行くのが楽しい」と回答した児童は約88%いるものの、そう思っていない児童が約12パーセントいることを踏まえ、Q-U検査を活かし、児童理解を深め、居心地良く、意欲を持って活動に取り組む学級集団を築いていく必要がある。
- ・本校ではソーシャルスキル(他人とのかかわり力)を身に付けさせ、居心地の良い学級づくりに努めてきた成果が出てきているが、このことを学習意欲の向上、さらに学力の向上につなげるように職員研修に努め、授業力を向上させていく。
- ・「朝食を毎日食べている」児童の割合が、97.4%と全国に比べ1.8ポイント上回っている。「早寝早起き朝ごはん」について、今後とも家庭のご協力をお願いしたい。

平成27年度埼玉県学力・学習状況調査の結果（本校の概要）

1 調査の目的と概要

- (1) 目的 県教育委員会では、「どれだけ自分が伸びたか」を実感し、自信を深めて自分をさらに伸ばし、自分のよさを活かしていけるような教育を進めています。小学校4年生から中学校3年生までの7年間の児童生徒の学びを、しっかりと支えていくことを目的にして今年度から実施したものです。
- (2) 実施日 平成27年4月16日（木）
- (3) 実施学年及び教科等 4・5・6学年 国語・算数・質問紙調査

2 埼玉県・狭山市・本校の平均正答率

学 年	4 年		5 年		6 年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数
埼玉県	62.0	67.2	72.8	66.5	69.0	59.3
狭山市	60.0	66.3	72.2	67.2	67.3	59.3
本 校	61.5	64.7	72.2	67.4	68.1	62.3

3 考察（調査結果から見えてきたこと）

- 【国語】○どの学年もほぼ県平均と同程度である。本校は文章の読解力が高いが、主語、述語、修飾語、被修飾語の関係の一層の理解させたい。そのためにも、よりの確に読む力を伸ばしていきたい。
- 【算数】○県平均と同程度である。本校は図形の特徴を理解する力が高かった。これは、身近にあるものなどを使いながら図形の特徴を考えさせる学習活動ができていたためである。更に伸ばすために、正確な作図に加え、図形の特徴を論理的に考えさせることを授業の中で取り入れていく。
- 【質問紙から】○生活習慣や学習環境に関する質問では、どの項目でもほぼ県平均と同程度である。ただ、「自分には良いところがありますか」というような自分のことについての回答は、やや低い傾向がありました。自己肯定感をもたせるような取り組みがもっと必要かと感じます。

☆一人一人のよさを伸ばし基礎的・基本的な学力を定着させる本校の取り組みについて

◎一人一人のよさは調査結果と日常の学習・学校生活の様子から見つけ伸ばしていく。

◎学力向上は、毎日の授業づくりを中核に据えて進める。

2つの学力学習状況調査結果から、国語科では、言語活動において既習したことを活用することができる能力や、自分の考えや意見を効果的に表す能力、多様な文章や資料を読む能力、そして文章を読み取ってまとめて書くことができる能力などに課題があることがわかりました。本校の児童の実態をしっかりと把握し、実態に即した授業づくりを進めていきたいと思えます。よい授業では、子どもは真剣に学びます。反面、授業から心が離れると自分勝手に行動する児童が出るなどして、授業が成立しなくなることもあります。こ

のことを踏まえ、「授業が変わると子どもが変わる・学校が変わる」という学校としての姿勢を持ち、毎日の授業が子どもたちにとって「よい授業」となるよう、教員相互の研修を通して教師としての指導力を高めていきます。

◎学力向上につながる言語活動の充実

1 書く量、読む量を増やすなど、言語生活を豊かにする学習活動を大切に扱う。

まず、第一に、読み書きの量を増やす。ここ数年の調査問題の本文や設問のリード文を分析すると、文章の量が多いことがわかります。この文章を読み、問題の意図を理解しなければ解答は困難です。基礎学力としての書く力、読む力がまだまだ不足しているという実態を踏まえて対策を考えます。

これまでの基礎・基本は知識・技能で考えられてきましたが、活用する学力を伸ばすためにはある程度の分量の文章を抵抗なく読んだり書いたりできる「読み書きの基礎学力」が必要です。本校の対策としては、

①朝の活動などで読書や視写や聴写などを位置づける

②ノート指導を各教科で徹底する

③学校図書館を中核にした読書活動や学習活動を行う

④国語科の授業で読書活動を伴う言語活動を行う

⑤書く活動を読むことや話すこと、聞くことの学習でも強化する

など、達成感があり、読み書きの量を増やすような、そして授業づくりがやさしくなるような言語活動を、これまで以上に大事に扱いたいと考えます。

音読群読発表会、紙芝居づくり、視写を多用した絵本作り、学習のまとめの段階の新聞作り、リーフレット作りなどは継続していきます。

2 言語活動の充実をはかり、自分のことばで表現する力を伸ばす。

言語活動は、思考力・判断力・表現力の育成とその基盤となる言語力の向上に欠くことのできない活動です。その中心的な役割を果たす教科は国語です。しかし、国語のみならず、他の教科指導・教育活動で、種々の言語活動を仕組んでいくことで、より効果的にこれらの能力を育成できると考えます。

本校では、朝読書(毎週金曜日・読み聞かせ)、朝の会・帰りの会での発表、個人新聞作り、発表朝会、音読群読発表会、等を指導計画の中に位置づけています。

たとえば、算数科では、自分の考えを言葉や式、図に表し、論理的に説明する学習活動によって充実した言語活動が行われています。つぶやく、相談する、教え合う、話し合う等の形態によるコミュニケーション、ノート指導、算数用語の定着、グループ討議等を重視し、考えを表現し、伝え合い、発展させる授業をめざして毎日の授業を進めています。

3 教員相互に学びあう研修を通して、指導力の向上をはかる。

本校では、教師としての指導力を高めるために各種の研修に取り組み、適切な指導

ができる力を相互に高めあう努力を重ねています。

①本校児童の実態を踏まえ、目指す児童像を定め、具体的な行動目標（重点目標）を決めて実践しています。

②互いの授業を見合う中で、授業の質を高めています。

③授業の形を整え、各児童への細やかな指導を進めています。

○全校で共通してのノート指導

・全教科ともマス目のノートを使う ・マス目からはみ出さないように丁寧に文字を書く・ノートには日付とめあてを書く・定規を使って線を引く 等

○授業では、自分の考えを持たせ、話し合いの前に書く時間を設ける。

・板書を手がかりにして、学習成果が確認でき、後で見直しができるようなノートを子ども自らが工夫するよう指導する。

・選ぶ・比べるというような思考力を育てる活動が、授業の多くの時間でもてるようにする。

・グループ学習やペア学習の活動を設ける。

・授業の振り返りを書くことで、自己評価力を育てる。等

○授業の形を共通にして教科を超えて共通実践する。

・特に「書くこと」を徹底し、その積み重ねの中で学力向上に結び付ける。

・自信をもたせたい教科・学習内容等について教員間で共通理解する。

・学習に取り組む姿勢や長所等を認め励ます。 等

4 家庭や地域と連携し、子どもたちの学力向上をはかる

子どもたちには思考力、判断力、表現力を伸ばす学習指導の成果を、日常の言語生活に生かすことを求めます。学校では子ども同士の会話や職員室の出入りの時のあいさつや、トラブルなどの場面などの毎日の生活の場を生かして言語能力を育てます。例えば、友達どうしの話し合いでは単語で意見を述べ合うのではなく、文末まで考えて話すことを指導し、授業での思考の仕方を日常生活でも経験させています。このような方法に慣れてきたのか、以前は深く考えようとしなかった子どもたちが目的や意見、自分の思いや希望などを意図した発言をするようになってきました。友達とのトラブルについての報告も、自分がしたことと考えていることを区別して話すような姿が見られるようになりました。職員室での教員の会話も、子どもたちの学習中の態度について、「考えて発言するようになった」とか、「考えてノートに書くことができるようになった」とかの話題がでるようになりました。

各ご家庭におかれましても、「あいさつができる」、「悪いことをしたらきちんとあやまれる」と等、自分で考えて正しい行動ができる子どもたちを育ててください。そして、今後も「どれだけ自分が伸びたか」を実感し、自信を深めて自分の良さを活かしていける子どもたちを、一緒に育てていきたいと思えます。ご理解とご協力をよろしくお願いたします。

